

開発の方向性

1. 矢巾町民が毎日通う、会話と憩いの場の提供。
2. 矢巾町の「文化創造」「文化発信」に寄与する施設づくり
3. 町外の方々が集まる、ここにしかない機能の集約
4. 昼も夜も両方、賑わう仕掛けのある運営
5. 矢巾町のこれからの街づくりのモデルとなる地域性の打出し

CONCEPT

矢巾町民が、集う・語る・食を楽しむ、サードプレイス（第三の居場所）

YAHABAR

仕事や学校が終わったあとに、矢巾町民が必ず集まる交流の場所の創造
 ゾーン全体がBARのようにオープンスペースで自由に出入りができる空間
 カウンターとちゃぶ台で郷土の食を堪能し、楽しいお酒を飲みながら、スローなひとときを過ごす
 矢巾的ライフスタイルがここに生まれる

サードプレイスとは
 （第三の居場所）

ファーストプレイス（第一の居場所）=家・セカンドプレイス（第二の居場所）=職場・サードプレイス（第三の居場所）=憩いと交流の場

サードプレイスがあるか否かで街の魅力を大きく左右する

小上り付屋台

8席のコの字カウンターに
 ちゃぶ台のある小上りがつ
 いた矢巾式屋台を創りあげ
 る。一人から数名まで対応
 する汎用性のある屋台とす
 る。大小区画を設け幅広い
 業種に対応する。



自由茶屋

ゾーン内に誰でも利用ので
 きるちゃぶ台座席スペース
 を設け、昼も夜も賑わう町
 民の集いの場を作る。周り
 の屋台から、好きなものを
 タブレット端末で注文がで
 きるシステムで、宴会にも
 対応するスペースとする。
 レンガ式オンドル床暖房で
 冬も快適に過ごせる空間と
 する。



イベント広場

ゾーン内にイベント広場を
 設け、サークルの発表や音
 楽会等を開催し、空間に賑
 わいを創出する。イベント
 のない時は、可動式イスや
 テーブルを配置し、自由に
 休めるスペースとし町民や
 来街者の憩いの場となる。

